basICColor®

IMProve

マニュアル

目次

1. はじめに **5**

2. 概要 **7**

3. ツール **12**

3.1 測定データの自動的な改良とスムージング 12
3.2 重複 14
3.3 補正 17
3.4 スムージング 18
3.5 ホワイト補正 19
3.6 蛍光増白剤補正 22
3.7 トーンバリュー 25
3.8 リスケール 27
3.9 一次色編集 29
3.9.1 一次色の置き換え 30
3.9.2 用紙／サブストレートの置き換え 33
3.10 ガマット変換 37
3.11 平均化 39
3.12 結合 40
3.13 観察条件変換 41

3.14 カスタムチャート 43
3.14.1 グレイ, RGB及びCMYKの定義ファイル作成 44
3.14.2 マルチカラーの定義ファイル生成 48
3.15 エクスポートチャート 51
3.16 測定ファイルレポートの作成 56

4. 「ビュー」ウィンドウ 60
4.1 2Dビュー 61
4.2 3Dビュー 62
4.3 トーンバリューインクリース(TVI) 63
4.4 蜘蛛の巣 65
4.5 カーブ 67

5. 比較ウィンドウ 69

6. プリファレンス 72

7. 製品情報 basICColor IMProve 75

1章

はじめに

1. はじめに

basICColor IMProve は、プロファイルを作成する前に測定データを改良するソフトウェアソリューションです。ICCプロファイルを作成する際に、測定データが正しく準備されなくて問題を引き起こすことが多くあります。完全でない測定データの品質の中には、測定器で生ずる読取エラーやプリントエラーや人為的なこと（例えば均一でない測定データ）などがあり得ます。測定データを最適化したり、複数データをインテリジェントに平均化するためには、*basICColor IMProve* は完璧なツールです。望んでいることが明らかでないままでも、様々なタスクのための多くのオプションを利用できます。用紙の蛍光増白剤補正や様々な種類（例えばG7）のためのトーンバリューカーブの適用が、名前の通り*basICColor IMProve* でできます。

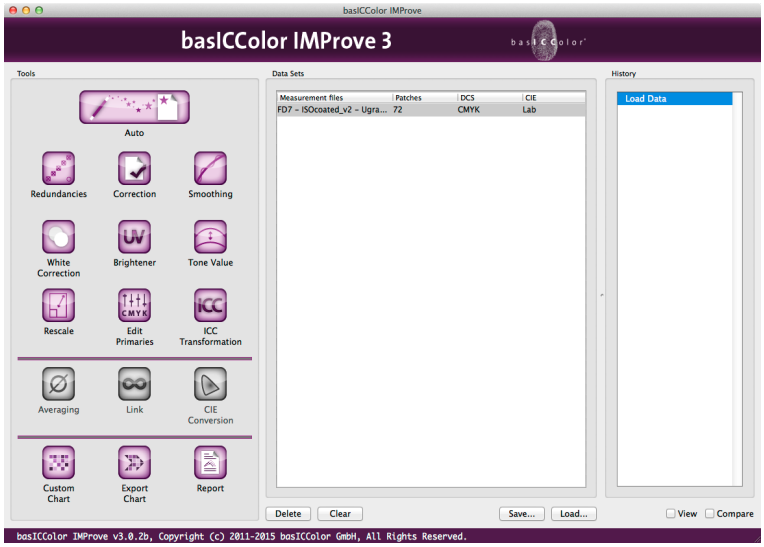
ICCプロファイルの品質は、測定データの品質に非常に依存します。測定データの解析と最適化により、プリント生産工程でより高い信頼性を得ることになる高品質のプロファイルを生成できます。この点に関し、*basICColor IMProve* は、ICC準拠であろうがなかろうが、市場の全てのプリンタプロファイリングツールを最適化します。

2章

概要

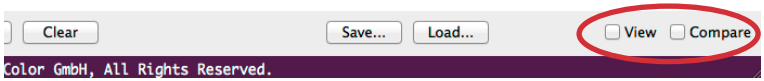
2.概要

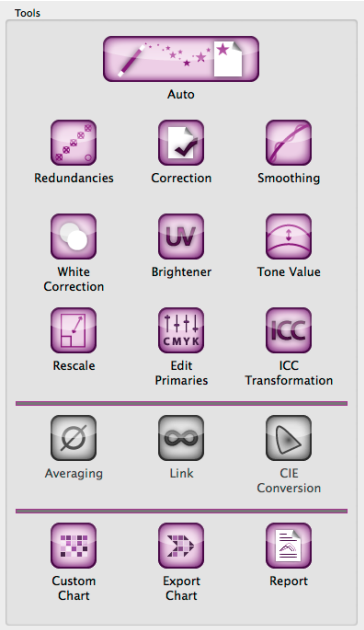
個々のツールは、メイン画面の左側に配置されています。**データセット**エリアにロードされているどんな測定データにも、これらのツールを適用できます。全ての動作は**履歴**に記録されます。いつでも**履歴**の対応する領域を選択して前の段階へ戻ることができます。



測定データ表示しているウィンドウ(**ビュー**チェックボックス経由の動作)は、アクティブになっている履歴の段階に基づいて更新されます。

右下端にある**ビュー**チェックボックスを有効にすることにより、測定ファイルを詳細に見る付加ウィンドウが開きます。**比較**チェックボックスを有効にして、いくつかの測定ファイルを比較したり、測定ファイルの前後比較をビューしたりできます。



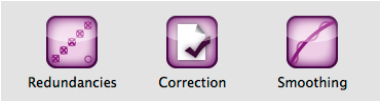


全てのツールはメイン画面の左部分に配置されています。 使用できないツールはグレイアウトしています。

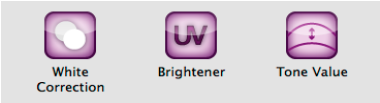
測定データの補正とスムージングを自動で行うためには、ウィンドウの上端にある大きな**自動**ボタンを使います。
いくつかの測定ファイルがロードされている時、一つまたはいくつかの測定ファイルを選択できます。ツールは選択された測定ファイルに適用されます。

重要： もしいくつかのファイルがロードされていて、特定のファイルが選択されていないなら、ツールはデフォルトで全てのファイルに適用されます。簡単に特定できるようにツール名がファイル名に付け加えられます。

使用できないツールはグレイアウトしています。



測定データを準備している時、作業方法に特定の順番を推奨します。最初に測定ファイル中の重複カラーパッチをクリーンアップします（重複）。それから誤りのある測定値を補正します（補正）。そして最後に測定データを滑らかにします（スムージング）。この流れは**自動**機能を使って自動的に実行されます。

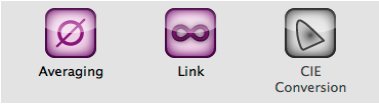


ホワイト補正、**蛍光増白剤**と**トーンバリュー**のツールは、特定のタスクを果たします。このマニュアルのツールの章を見てください。

リスケールツールは、読めないランダムなテストチャートを再ソートしたり再整列するための、あるいは、テストチャートを完全に異なるレイアウトに再整列するためのオプションのツールです。

一次色編集は、一次色と測定値内にある紙白を調整したり、変更したり、拡張するための大変強力なツールです。.

ガマット変換ツールは、基準データ（CMYKやRGBのようなデバイスデータ）について、ガマット色変換の影響を総合的にテストするために、ICCデバイスとデバイスリンクプロファイルのどちらでも三つのプロファイルまで使用できます。



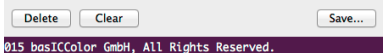
この区域のツール(**平均**、**リンク**と**観察条件変換**)は、複数の測定データの単位で使用するようにデザインされています。

- **平均**　同じターゲットの複数回測定。
- **リンク**　いくつかのテストチャートの測定値を一つの新しい大きなデータファイルにする。
- **観察条件変換**で、視野角や証明条件を変更することができます。

このツールセットは、追加的な機能を提供します。

- **カスタムチャート**で、テストチャート作成のための独自の定義ファイルを生成します。
- **エクスポートチャート**で、プリント出力のためにTIFFやPSDファイルで、基準テストチャートを作成します。
- **レポート**で、測定データの広範な解析/レポートをPDFやXMLファイルで作成します。

保存ボタンをクリックすることで、最適化した測定データが保存されます。

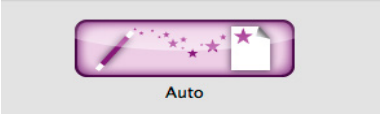


削除ボタンをクリックすることで、必要がなくなった測定ファイルが削除されます。

クリアボタンをクリックすることで、全てのアップロードしたファイルを、全ての現在の履歴と一緒に削除できます。

3章

ツール



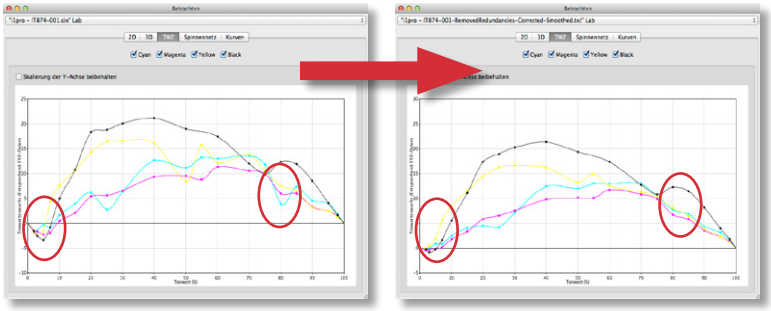
3. ツール

3.1 測定データの自動的な改良とスムージング

測定データを準備する時、作業に特定の順番を推奨します。最初に測定ファイル中の重複カラーパッチをクリーンアップします（重複）。それから誤りのある測定値を補正します（補正）。そして最後に測定データを滑らかにします（スムージング）。この流れは**自動**機能を使って自動的に実行されます。

例：

ロードボタンを使って測定ファイルをロードするか、単純に測定ファイルを**データセット**エリアにドラッグ＆ドロップします。自動ツールを選択し、開いたダイアログの「開始」を押します。



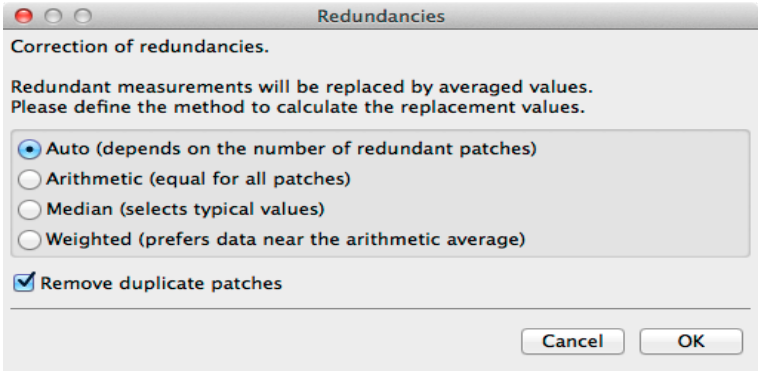
もし**ビュー**がアクティブになっていれば、各ステップを追いかけることができ、またいつでも動作を戻すことができます。

最適化した測定データは、**保存**ボタンを使って新しいファイルとして保存します。最適化した測定ファイルを高品質なプリンタプロファイルを作成するために使用することができます。

***メモ**:測定データはICCプリンタプロファイル内に保存されます。(basICColor　DeviLは測定データを常にICCプロファイル内に保存します)このデータは、測定ファイルをbasICColor IMProve のデータセットエリアへドラッグ&ドロップすることで、簡単に抜き出すことができます。*

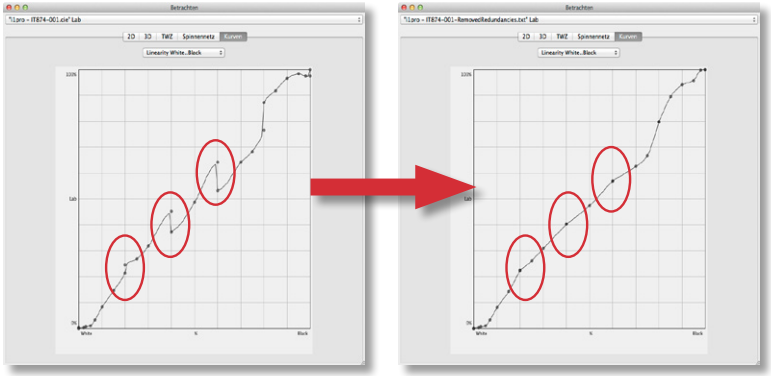
3.2 重複

重複しているカラーパッチ、特にそれらが非常に異なった測定値である場合、プロファイル作成中にエラーを引き起こします。そこで、重複カラーパッチ（例えば同じ色で10の異なった測定値）を平均し、それらを同じ値で置き換えることは意味があります。重複ツールを使ってこれを行うことができます。
測定ファイル中で重複する測定値を同じ値で置き換えるのに四つの異なった方法があります。



自動

自動法を使うと、カラーパッチの数によって異なった方法が用いられます。それによって、いくつかのカラーパッチを他と異なる方法で処理することができます。最もインテリジェントな方法なので、**自動**の方法は他より望ましいです。



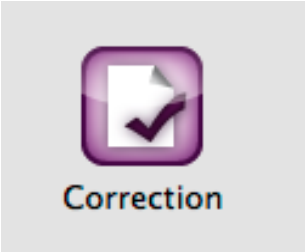
算術的
例えば、もし二つのカラーパッチだけが平均されるのであれば、算術的、すなわち測定値の平均、が用いられます。

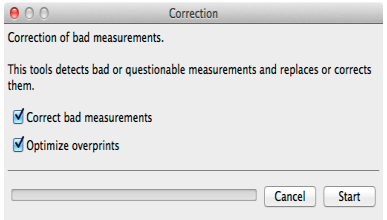
中央値と加重
もし三つ以上のカラーパッチがあるならば、自動法は**加重**か**中央値**を使います。**中央値**と**加重**法のどちらも、多くの測定値がある時、平均を求める目的のために、大きく離れている値を捨てます。
中央値は、統計分野から来ている方法で、二等分した間の中間にある値を意味します。

重複パッチの除去

重複パッチの除去チェックボックスにチェックを入れることによって、選択された計算法に加えて、複数のカラーパッチが削除されます。この設定は、まず色値を計算し、それから同じ色値の全てのパッチを、一つを残して削除します。

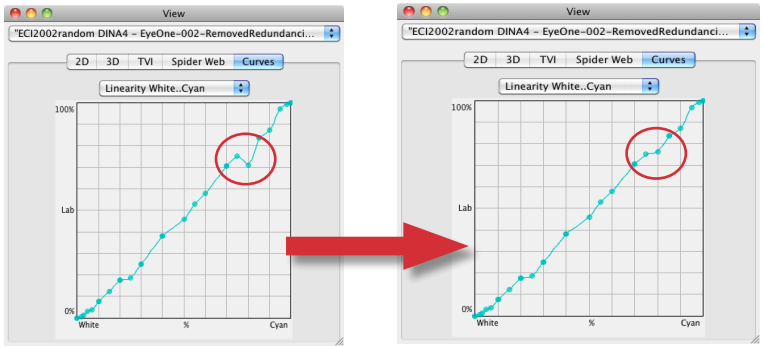
***メモ**:放射データ、例えば、一つの測定ファイルにDCSデータなしで保存されている、光源から読み取った複数のスペクトル読取値は、重複ツールを使って平均することができます。もし、測定値がスペクトルであるならば、平均化はスペクトルデータで行われます。*



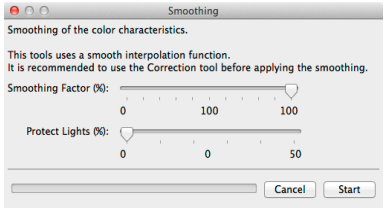


3.3 補正

補正ツールは、欠陥のある測定あるいは不正な測定値を検出し、それらを予測値と置き換えます。不正な測定値の例は、階調の色値が、隣接する色に基づく予測値より明るくなるか暗くなることです。これは、例えば、印刷工程で望ましくない変動によって起きたり、測定の間に汚れたカラーパッチによるものです。不正な測定値の別の例は、レッドのカラーパッチの替わりにグリーンのパッチがある場合です。そのようなものが正しくない測定の兆候です。もし、そのような欠陥が検出されず修正されないならば、不十分なプリンタプロファイルとなるでしょう。

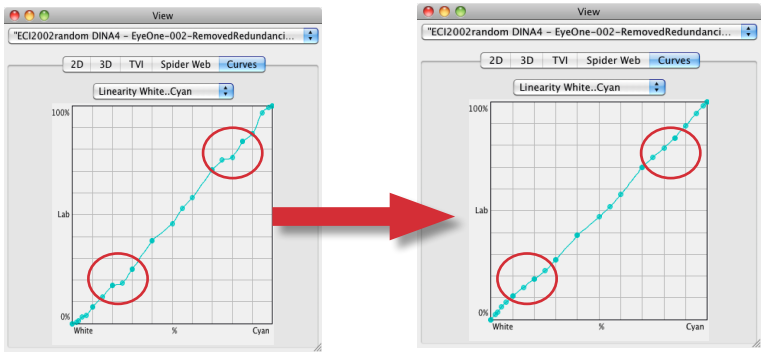


***メモ**: 補正ツールは、いつもスムージングツールを適用する前に、測定データに使われなければなりません。スムージングの間に、欠陥のある測定は保持され、結果のファイルに組み込まれるでしょう。しかしながら、これは測定値内にエラーを生成するでしょう。*



3.4 スムージング

basICColor IMProve は、測定データを滑らかにする可能性を提供します。このオプションは、もし印刷システム全体で基準プロファイルを作成しなければならない場合に、非常に有用です。

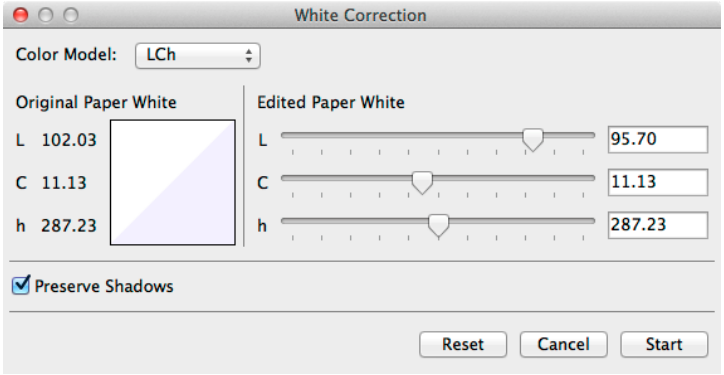


ほとんどの印刷システムは、全くリニアな階調の印刷の様子を示しています。しかし、テキスタイルや構造体ファインアートメディアのような通常と異なる印刷メディアは測定に影響し、ある測定値がときどき予想外になる可能性があります。この場合、測定値に影響を与えるネガティブな効果（例えば構造）を補償するために測定読取値をスムーズにすることは意味があります。

3.5 ホワイト補正

ホワイト補正ツールは、測定データの最も白いカラーパッチに手動の補正を適用します。これは一般的には用紙やサブストレートの色です。ツールは単一の測定ファイルに用いられます。修正するLabやLCh入力値の形での補正は、あるターゲットホワイトポイントに合わせたい状況や、より明るくまたはより暗く、あるいはファイルを再配色する必要がある状況で役に立ちます。手動補正は、印刷特性を維持したまま全測定データに適用されます。

例:
ある場合には、測定した紙白の目視補正が必要になるかもしれません。セラミック、フィルムや半透明メディアのような半透明の材質の場合、45/0測定の配置は、メディアホワイトポイントを暗く読み過ぎることになる可能性があります。特別な測定技術や他の手の込んだ手順を避けるために、**ホワイト補正**ツールを使って非常に簡単に調整することができます。



これが進め方です。

- 測定データをロードします。
- **ホワイト補正**をクリックします。
- 補正を調整するために、LChかLabのカラーモードを選択します。
- いつでもモードを変更できます。LChは色相と彩度を個別に調整できるのに対して、a*とb*での補正は色相と彩度を同時に変えます。分割しているカラーパッチは、左側が元のホワイトを、右側が修正したホワイトを示します。

***メモ**:スライダーは非常に小さく変化できます。もし、スライダーの範囲をもっと小さくしたいなら、単純に数値領域に望む数値を入力できます。それから、もし必要なら、再度小さい数で値を修正することができるように、スライダーは再び中間の位置に移動します。*

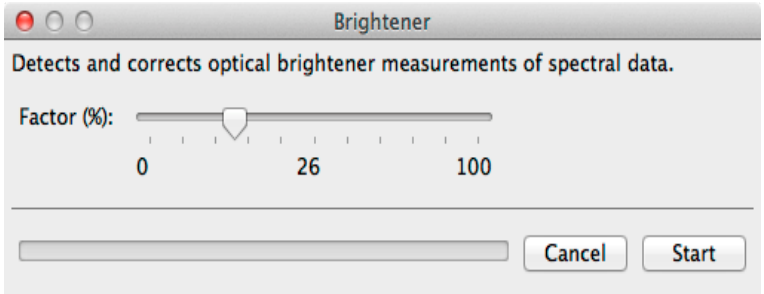
- 明度(L*値)を変更する時、一般的には測定ファイルの最も暗い色も影響されます。もし、ブラックポイントと最も暗い色に影響させたくないなら、シャドウ保持チェックボックスをオンにするべきです。デフォルト設定ではオンになっています。

- **リセット**ボタンをクリックすると、スライダーの修正を破棄します。

- **開始**ボタンをクリックすると、変更を全ての測定ファイルに適用します。ダイアログは演算後に自動的に閉じます。

3.6 蛍光増白剤補正

製紙会社は、用紙をより明るく見せるために、しばしば蛍光増白剤を使います。不幸なことに、我々は測定器とは異なった条件下で目視の確認を行います。標準の5000ケルビンの観察条件下で、用紙はより明るく見えるのに対して、測定値は通常、本当に明るいのではなく、非常に青みがかった白となります。



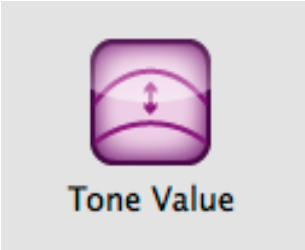
ここでの問題は、D50観察光源と完全に一致しなくなる標準のライトブース下での確認です。D50観察光源での分光光度計の測定値は、ニュートラルグレイを達成するために、紙白のブルーの比率を過度に補償するので、特にプロファイルを用いた標準光源下での確認で、問題を引き起こします。これは、過度に黄色いグレイバランスやプルーフィングの際の用紙シミュレーションで厄介です。

この影響を補うために、**蛍光増白剤**ツールを測定データに使うことができます。このツールを最適に操作するためには、スペクトル測定データ（レミッションデータ）が必要です。この処理の最初の段階は、用紙が蛍光増白剤を含んでいるか、それとも単に青い色調の用紙なのかを確かめるために、ツールが紙白のレミッションカーブを解析します。二番目の段階は補正です。しかし、これは蛍光増白剤が検出された場合のみ働きます。

補正はスライダーコントロールを使って無段階に調整できます。100%で、用紙がUVカットフィルタで測定されたのと同様の結果が達成されます。

蛍光増白剤ツールを用いると、測定値ファイルの全てのエリアに内包する、蛍光増白剤によって影響される紙白のスペクトル値の修正になります。当然、これらは主に明るい色値のところでの効果で、シャドウまたは高彩度の色では、少ないか全くありません。もし測定ファイルがスペクトルレミッション値を利用できるなら、*basICColor IMProve* はスペクトルデータを保持します。

***メモ**: 蛍光増白剤補正は、スペクトル測定データ(レミッション値)への最良の適用です。他のツール、例えば自動、補正あるいはスムージングは、蛍光増白剤補正を実行するまで使用してはいけません。なぜなら、これらのツールはスペクトル測定値をLab値に変換し、それゆえ蛍光増白剤の検出が機能しなくなります。Lab値の補正も非スペクトル測定値で機能します、しかし、この場合には、もっと基本的な補償モデルが使われます。*



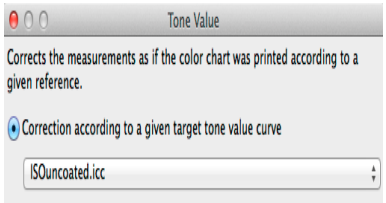
3.7 トーンバリュー

トーンバリューツールは、測定データのトーンバリューを望むトーンバリューカーブに合わせます、またはグレイバランスを最適化します。

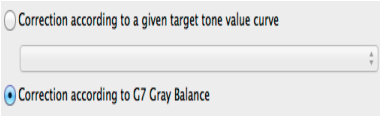
トーンバリューインクリーズ特性あるいはグレイバランス特性に従って生産を行いたいために、これに適したプロファイルを作成したいでしょう。たとえ、望んだ特性を達成するために、できるだけ正確にCTPカーブで作業しようとしても、常に生産技術と計測上の要因によって解離が起きます。

トーンバリューツールで、測定データに完全に結合するトーンバリュー補正を確実にするために三つの方法があります。.

- 最初のオプション、**与えられたプロファイルに従う補正**、標準プロファイルとこのプロファイルからのトーンバリューカーブを指定します。測定値は指定された標準プロファイルでできているのと同じトーンバリューインクリーズカーブを達成するように正確に調整されます。

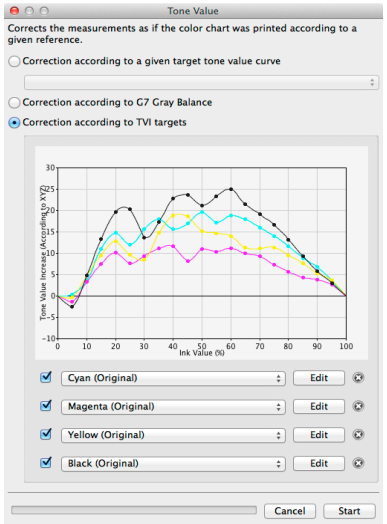


***メモ**: ロードした測定データに従い、色空間が一致するプロファイルのみが表示されます。例えばCMYKやマルチカラー。*

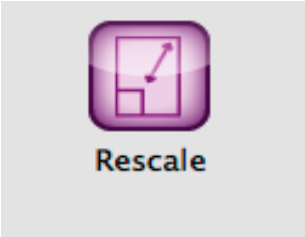


- 第二のオプション、**G7グレイバランスに従う補正**、トーンバリューカーブは、G7キャリブレーションプロセスのグレイバランス要件に一致するように演算されます。

***メモ**: G7はCMYKのみで働くように定義されています。しかしながら、マルチカラーファイルのCMYK部分にG7プロセスを適用することもできます。付加した（マルチカラー）チャンネルは影響されません。G7キャリブレーションプロセスは、CMYカーブが定義された明度値のニュートラルグレイに達することを、全グレイバランスカーブを通して確実にします。*

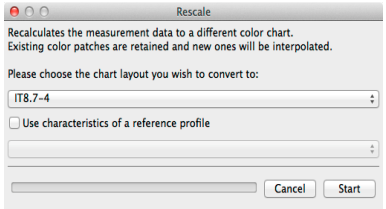


- 第三のオプション、**TVIターゲットに従う補正**、測定データに結合するべきトーンバリューインクリーズを、前もって指定するために、各チャンネルの詳細な手動の編集ができます。この機能はCMYKとマルチカラー色空間において働きます。



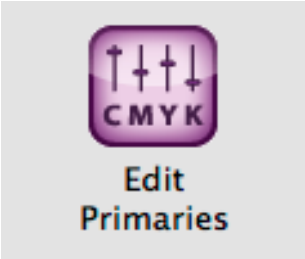
3.8 リスケール

basICColor IMProve は、小さいテストチャート測定ファイルからのプロファイリングにおいて、大きなテストチャートを演算することができるようにします。ある印刷工程（例えば不均一な材質へのフレキソ印刷）では、大きいECI2002テストチャートを職人的にではなく印刷するのは非常に困難です。小さいテストチャート、例えばUgra/Fogra MediaWedgeV3をいくつか配置し、*basICColor IMProve* でそれらを平均化して、それからリスケールツールを使って大きなECI2002テストチャートにスケールアップする手順はより効果的です。



例：スケールアップしたい測定ファイルを選択し、**リスケール**ボタンをクリックします。
測定ファイルをスケールアップしたい望ましいテストチャートレイアウトを選択します。
もし、プリントされた基準に近い記述のあるICCプリンタプロファイル（基準プロファイル）が既にあるなら、オプション**基準プロファイルの特性**を使うにチェックを入れて、プリンタプロファイルを選択することができます。このようなプロファイルがないなら、チェックマークはオンにしないでください。
開始をクリックすると、*basICColor IMProve* は演算し、小さいチャートから足りないカラーパッチを挿入して、望むチャートレイアウトを作成します。
保存ボタンをクリックして、スケールアップした測定値ファイルを新しいファイルとして保存します。

***メモ**:足りないカラーパッチは、他のチャートにスケーリングする時に自動的に補完されます。足りないカラーパッチ(例えば小さいチャートに入っていないオーバープリントカラー)は、基準プロファイルの助けでより良く評価できます。*
反対に、リスケールツールを、測定した大きなECI2002やIT8.7-4テストチャートからFogra/Ugra　MediaWedge V3に必要なカラーパッチを抽出するために使うことができます。basICColor IMProve は、利用できる測定ファイルから、新しいチャートレイアウトに1:1でカラーパッチを使います。これで、プリントされたプルーフを非常に簡単に検証するために、独自のメディアウェッジ基準ファイルを作ることができます。



3.9 一次色編集

一次色編集は、既存の測定済テストチャートに一次色や用紙/サブストレートを追加、削除、置き換えをします。一般的な印刷物生産では、インキの追加や入れ替えは、非常に増加したテストチャートの印刷経費を必要とします。**一次色編集**ツールは、単純に追加あるいは置き換える新しいインキのスペクトルデータを必要とします。**一次色編集**は、単にインキを置き換えるだけではなく、インテリジェントなスペクトルカラーモデルに基づいて全てのオーバープリントを再演算し、新しい測定データを生成します。

一般的な生産シナリオでの、**一次色編集**ツールによる潜在的な効率の向上：

- 印刷条件の変動：特徴が出やすい連続印刷は、ベタインキ濃度か一つ以上の色相にわずかな不備が出ます。

- 用紙/サブストレートの置き換え：インキは同じであるが、生産や特定のジョブで少し異なる用紙が用いられます。

- パッケージ印刷でのインキの置き換え：
例えば、シアンをブルーに、あるいはマセンタをローダミンレッドのように入れ替える新しい特性データセットの作成。

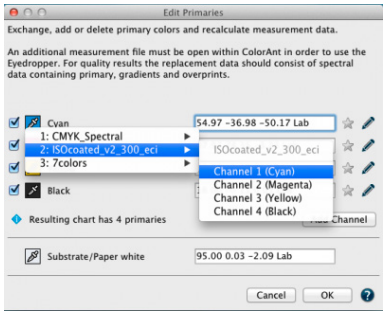
- パッケージの顧客のための柔軟性： 完全に拡張した7色印刷特性データセットから、新しい特性データセットを構築するために、新しいテストチャートを印刷することなく、チャンネルを削除することによって、異なる色の別形を作成する。例えば、7Cデータセット（例：CMYK+オレンジ+グリーン+バイオレット）からCMYKのみ、CMY+バイオレット、CMYK+オレンジ+グリーンあるいは他の組み合わせのための別形を構築。生産設備は、印刷が安定していることを保証する必要があり、ジョブが必要とする色に従って印刷し、チャンネルが最小のプロファイルを選択します。

- CMYKガマットの増大：5番目、6番目、7番目の色をCMYK印刷工程に加える。

3.9.1 一次色の置き換え

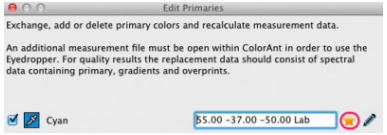
- *basICColor IMProve* で編集するために、テストチャートの測定データをロードします。提唱するワークフローは、測定済の新しい一次色と共に、一次色の階調とオーバープリント情報を含む別のデータセットをロードすることです。

- 編集のためにテストチャート測定ファイルの測定データを選択し、一次色編集をクリックします。



- 一次色の置き換え：置き換えのために色のスポイトアイコンをクリックします。(シアンの置き換えをデモンストレートしているスクリーンショットを見てください)。

- *basICColor IMProve* にロードしている別のデータセットから新しい一次色を選択します。一次色をインポートするチャンネルをクリックします。別のチャンネルから色を選択することはオプションです。**一次色編集**では、もし変化があるならば、すぐに確認できるように、新しい一次色のLab値が表示されます。もし、インポートした測定データがスペクトルデータならば、星印が強調表示されます。

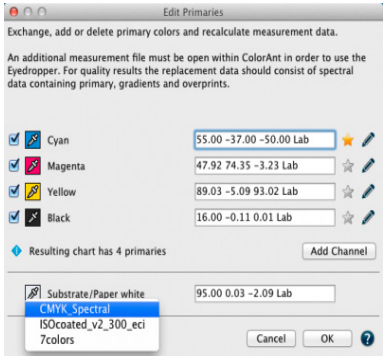


***メモ**：**一次色編集**に関連した最もパワフルな機能が、測定データをインポートしている間に、バックグランドで動いています。**一次色編集**は、提供されたデータから最良のパッチを動的に選択する能力があります。**一次色編集**ツールに提供するデータ(スペクトルデータが望ましい)が完全であるほど、結果が正確になります。置き換えを改良する項目は、ブラックを伴う一次色のような、一次色の階調、オーバープリント情報です。もし、一つだけの完全な階調のパッチがあるならば、basICColor IMProve は確実な印刷の動きを想定します。*

- 利用できる新しい一次色の測定データがなければ、Lab値を数値ボックスに入力するオプションがあります。たとえ、それを考慮しなければならないとしても、全ての演算がスペクトルデータに基づいてなされたかのように正確であるというわけではありません。これはまたグレイの星印アイコンで分かります。

- 完了する時は**OK**をクリックし、データは修正され、*IMProve*の**データセット**区域に表示されます。新しいデータを、他のタスク（例えば*basICColor IMProve*でICCプロファイルの作成）で用いられるように**ファイル/保存**で保存します。

- 一次色の置き換えを確認するためのデータの検証に**比較**ツールを使います。



3.9.2 用紙／サブストレートの置き換え

- *basICColor IMProve* に、チャート測定データをロードし、測定した紙白の情報を含む二番目のファイルをロードします。

- 編集するためにテストチャートの測定データを選択し、**一次色編集**をクリックします。

- **サブストレート/紙白**のスポイトアイコンをクリックし、*IMProve* にロードしてある他のデータセットから新しい紙白を選択します。 データをインポートするためにデータセットの名前をクリックします。

- もう一つの選択肢として、もし新しい紙白の有効な測定ファイルがなければ、新しいLab値を数値配列に入力します。もちろん、これはスペクトルデータで作用するのと同じに正確というわけではありません。

- OKをクリックした後、**データセット**は修正されます。*basICColor IMProve* は、データセットのもとで見つけられる修正された測定データを演算します。このファイルをさらなる使用、例えば*basICColor DeviL* でのICCプリンタプロファイルの作成、のために**ファイル/保存**で保存します。

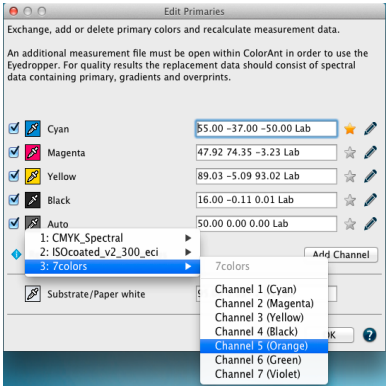
チャンネルの追加

- *basICColor IMProve* に、チャート測定データをロードし、測定済の一次色、グラデーション、オーバープリント の情報がある二番目のファイルをロードします。

- 編集するために、テストチャートの測定データを選択し、**一次色編集**をクリックします。

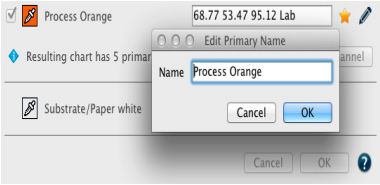
- **チャンネルの追加**をクリックします。デフォルトのグレイLab値をもつ新しいチャンネルとチャンネル名**自動**が追加されます。

***メモ：自動**の登録は他のデータセットからチャンネル名を拾い出します。*



- 新しいチャンネルのスポイトアイコンをクリックして、*basICColor IMProve* にロードしてある別のデータセットから、新しい一次色を選択します。データをインポートするためにチャンネルをクリックします。

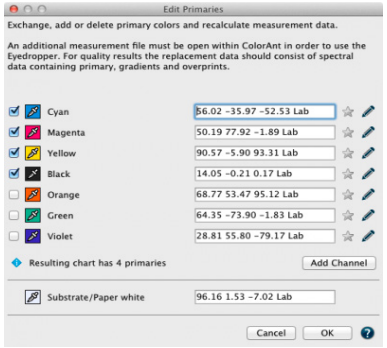
- スクリーンショットに示しているのは、オリジナルのCMYKデータセットに、5番目の色のオレンジを追加した例です。



- チャンネルの名前を変えたい場合は、ペンシルアイコンをクリックし、表示される**一次色名編集**ダイアログに希望の名前を入力します。

- **OK**をクリックすると、新しい5色インキのデータセットが生成されます。*basICColor IMProve* は、**データセット**のもとで見つけられる修正された測定データを演算します。このファイルをさらなる使用、例えば *basICColor DeviL* でのICCプリンタプロファイルの作成、のために**ファイル/保存**で保存します。

- 新しい5色のデータセットを確認するために、**ビュー**ツールを使います。*basICColor DeviL* で5チャンネルのプリンタプロファイルを構築できるように、オーバープリントを含む全ての色が追加されていることを確認するために、**2D**、**3D**、**くもの巣**、**TVI**タブを選択します。もし望むなら、5番目のチャンネルのTVIカーブを、**トーンバリュー**ツールを使ってさらに修正できます。



チャンネルの削除

- テストチャートの測定データをロードして選択し、**一次色編集**をクリックします。

- 削除する必要があるチャンネルの前のチェックボックスをオフにし、**OK**をクリックします。**一次色編集**ダイアログ内の下の情報エリアに、結果としてのデータセットが含んでいるチャンネルを表示します。

- 新しいデータセットは、チェックがオンであるチャンネルに縮小されます。これは、マルチカラーファイルであり、マルチカラーライセンスガロードされている場合、*basICColor DeviL* で使われるだけであることに気をつけてください。

***メモ：一次色編集**の別の機能は、このツールを一つのチャンネルの一次色勾配を抽出するために使うことです。単純に必要とする一つのチャンネル以外の全てのチェックボックスのチェックをオフにします。*

3.10 ガマット変換

ガマット変換ツールでは、基準データ（CMYKやRGBのようなデバイスデータ）について、ガマット色変換の影響を総合的にテストするために、ICCデバイスとデバイスリンクプロファイルの両方を三つのプロファイルまで使用できます。ツールは、また、選択されたデータセットに合致するプロファイルのみを表示します。もし、CMYKデータがロードされているなら、不要なエラーメッセージを出さないために、CMYKプロファイルあるいはCMYKデバイスリンクプロファイルのみを表示します。

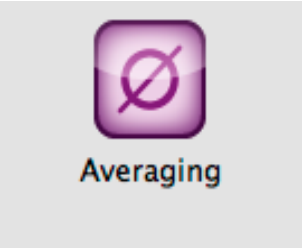
この例では、インキ削減デバイスリンクプロファイルが、正しくはどのように働くかを説明します。

例:

- 同じ大きさのテストチャートレイアウト（例えばIT8.7-4）を2回 **ファイル/開く 定義済**で開きます。このテストチャートのCMYK基準値が開きます
- 二つの開いた基準ファイルの一つを選択します。インキ削減プロファイルを作成した時の元のプリンタプロファイル、あるいは**ガマット変換**ウィンドウ内の基準ファイルで有効なものを適用します。**絶対色彩的**レンダリングインテントで基準ファイルをLabに変換します。

- 今、もう一つの基準ファイルを選択します。まずインキ削減デバイスリンクプロファイルを適用します。次に元のプリンタプロファイルを絶対色彩的レンダリングインテントで適用します。基準ファイルをLabに変換するのに加えて、またCMYK値がインキ削減プロファイルで変更されます。

- インキ削減変換の目的は、修正した（縮小した）CMYK値にもかかわらず、できるだけ正確に元のプリンタプロファイルの色の印象を維持することです。すなわち、最小の色差を達成することです。**色比較**ウィンドウで両方のファイルを比較します。**比較**チェックボックスで開きます。**グラフ**タブで、このサンプルでは、平均色差（**平均**）が0.1デルタEで、最大色差（**最大**）が1.2デルタEであり、色差の90%（**90%パーセンタイル**）は0.2デルタE以上離れていないことが分かります。



3.11 平均化

同じテストチャートレイアウトのいくつかの測定ファイルが利用できて、これらを平均したい時、*basICColor IMProve* は異なった平均化の方法を提供します。ほとんどの場合、算術的方法を選択するのは最良ではありません。特に、もし測定データ内に不整な値がある場合、これは適切な平均結果の形成を妨げます。平均されるカラーパッチによって、異なった方法が**自動**法で用いられます。例えば、もし二つのカラーパッチのみが平均されるのであれば、**算術的**が用いられます。もし三つ以上のカラーパッチがある時、**自動**法は、**加重**か**中央値**を用います。

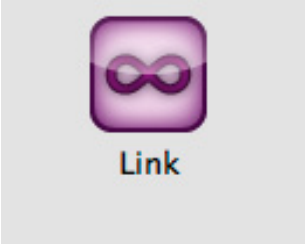
- 平均したい測定値をロードし、**データセット**リスト内のこれらを選択します。選択した測定ファイル全ての中のカラーパッチの数が同じか確かめます。そうでなければ、平均化機能を直接使うことはできません。

- **平均化**ボタンをクリックします。

- **平均化**設定ダイアログ内に、種々の有効な平均化の方法があります。測定ファイルとカラーパッチの数に依存して、特定の方法を推奨します。ほとんどの場合、デフォルトで選択されている**自動**法を選択することで正しい選択になります。

- **OK**をクリックすると、選択した測定ファイルが、平均したファイル（平均済.txt）を形成するように合成されます。

- 平均したファイルを**別名保存**で保存します。



3.12 結合

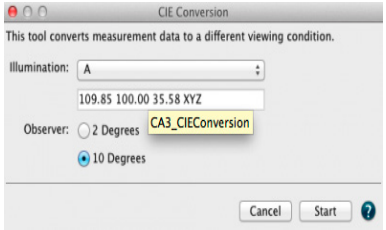
結合ツールは、特に、複数の大きさのテストチャートを結合して、一つの大きな測定ファイルにデータを合成するように設計されています。

- 全ての測定データを開き、データセットエリア内の全てを選択します。

- 結合ツールをクリックし、それからOKを選択します。

- 測定データは、新しいファイルに結合されます：結合txt

それから、**重複**ツールで重複カラーパッチを平均します。平均化方法の隣の**重複パッチの削除**チェックボックスをオンにし、重複カラーパッチを削除します。重複カラーパッチを平均化する方法は、**平均化**ツールと同じです。



3.13 観察条件変換

観察条件変換ツールは、視野角を標準の2度から10度に変更し、観察光源を標準のD50から変更します。

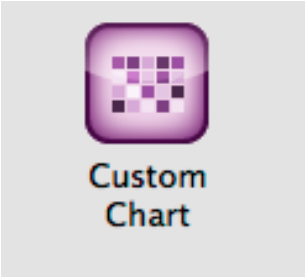
***メモ**:観察条件変換ツールは、スペクトルデータでのみ使うことができます。*

観察光源のプルダウンメニューには、いくつかのオプションが含まれています。プリンタプロファイルは、一般的に D50観察条件で作成されます。しかしながら、もし白熱灯の光(おおまかにはA光源に相当)で照明されたギャラリーで写真をセットアップする必要があるならば、あるいは、照明条件が意欲的(例えば蛍光の光)であるような展示会での陳列であるならば、照明条件を考慮に入れることができます。前もって定義された三つの観察条件の一つを選択することもできるし、測定済の観察条件を手動で、ケルビンまたはXYZ値の形式で入力することもできます。放射オプションは、照明をカスタマイズする強力なツールです。放射オプションは、CxF3かテキストファイルでロードすることにより、特定の光源のスペクトル放射読取値を選択することができるようにします。さらに簡単に、*basICColor IMProve* がファイルからホワイトポイントを抽出して値を表示するための値領域上に、光を測定した測定ファイルをドラッグ&ドロップすることができます。

***メモ**:もし、複数の光源読取値があるならば、Océ Printing Systems GmbH & Co. KGは、測定値をまず**重複**ツールを使って平均化し、データを保存して、それから放射読取値を**観察条件変換**にロードすることを推奨します。*

***OK**ボタンをクリックして**観察条件変換**を適用すると、Lab値のみを含む測定ファイルになります。そのため、スペクトルデータは選択した視野角と観察光源を使ってLabデータに変換されます。このデータをbasICColor IMProve でプリンタプロファイルを構築するのに使います。*

*Labデータに変換されるため、**観察条件変換**は常に最後の段階で適用します。*



3.14 カスタムチャート

プロファイリングのためのカスタムテストチャートを定義するために、色空間のデバイスデータを含む定義ファイルが必要です。**カスタムチャート**ツールは、テストチャート生成のために定義ファイルを作成するように設計されています。**カスタムチャート**は、以下の色空間の定義ファイルを生成することができます。

- グレイ, RGB, CMYK
- 1CLR, 2CLR, 3CLR, 4CLR, 5CLR, 6CLR, 7CLR

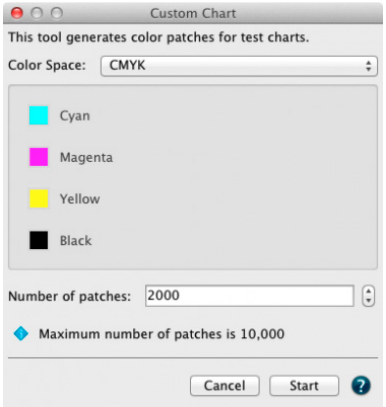
後で、**エクスポートチャート**ツールを使って、TIFFまたはPSDフォーマットのピクセルファイルを作成し、デバイスでプリントし、*basICColor catch* を使って、分光光度計でテストチャートを測定します。

次の説明は、**カスタムチャート**ツールを使った定義ファイルの生成のやり方を示しています。色空間によって異なったオプションが有効です。

3.14.1 グレイ、RGB およびCMYKの定義ファイルの生成

定義ファイル生成の間に、一次色をリニアライズするかしないかを選択します。

***メモ**:リニアリゼーションは、もし、印刷システムが予期しない印刷、例えば、強いトーンバリューインクリーズによって色が非常に暗くなるなど、の傾向があるのであれば、いつも役に立ちます。リニアリゼーションは、その印刷システムのために、最良な方法でカラーパッチを分布する助けとなります。加えるに、basICColor IMProve は、テストチャート内のカラーパッチの分布で、衝突を避けるために、非常に滑らかで均一なリニアリゼーションを生成します。*

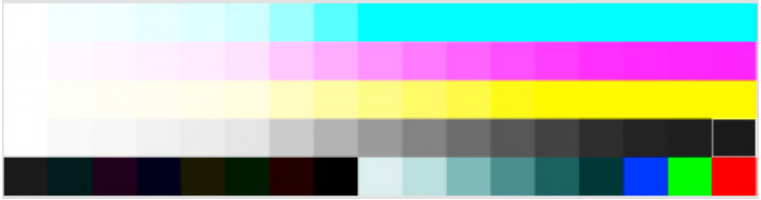


リニアリゼーションなしの作業では、単に**カスタムチャート**を開き、プルダウンメニューで**色空間**を選択します。

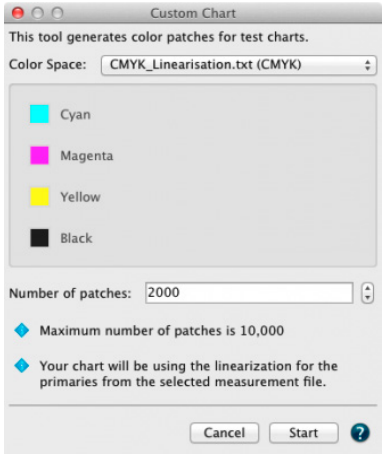
メモ：*もし印刷システムでRIPがキャリブレートされているなら、あるいは、もし専用のCTPカーブが使われているなら、さらに、もし印刷システムが出力にどんな変調も示していないなら、リニアリゼーションなしで作業するだけです。*

リニアリゼーションテストチャートからの追加のリニアリゼーション測定データでの作業には、印刷システムで出力し、分光光度計で測定することが必要です。**カスタムチャート**ツールを開く前に*basICColor IMProve* に測定データをロードします。

メモ：*CMYKシステムについては、例えば**ファイル/開く　定義済**の下にIMPRから提供されているファイルLinearization-CMYK-v1.txt（スクリーンショットを確認してください）を使うことができ、5色CMYK+X印刷システムについては、ファイルLinearization-5CLR-v1.txtを使うことができます。*



色空間プルダウンメニュー中の前もってロードした測定ファイルを選択します。*basICColor IMProve* は、自動的に色空間を認識し、チャンネル名を表示します。加えるに、リニアリゼーションに関する情報メッセージが表示されます。



パッチの数を指定してください。これは、デバイス色空間がどれだけ正確にカラーパッチで満たされるかに影響します。出力上の有効な色空間、求められているプリンタの特性記述データまたは特性の正確さを考慮に入れてください。ツールは、ほんのわずかなパッチでさえ、適切なプロファイルを作成できる最も可能な方法で、色空間をカバーできるようにプログラムされています。

***メモ**:必要なパッチの数について、推奨として以下のテーブルを使うことができます。*

Use case / Number of Channels	1	2	3	4	5	6	7
Process Control & Profile Update	10	25	60	100	130	180	250
Profiling/small	10	50	200	300	500	700	900
Profiling/medium	10	80	500	900	1000	1100	1300
Profiling/large	20	120	1000	1800	2300	2800	3300

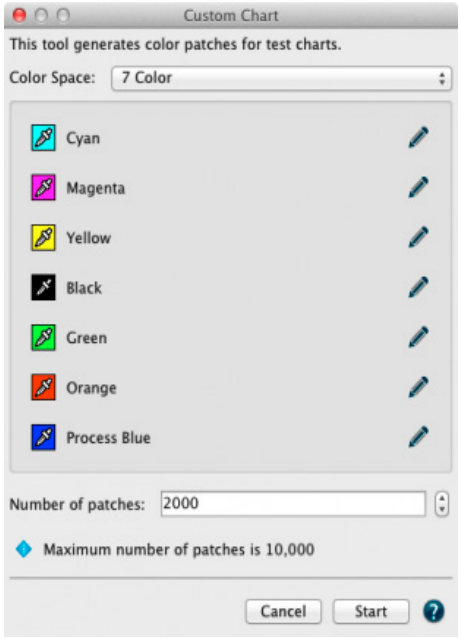
開始ボタンをクリックするとすぐに、定義ファイルが演算され、**データセット**に表示されます。デバイス色空間とパッチの数がファイル名に含まれます。

もし、他のプログラムでテストチャートとして再使用したいなら、**保存**で定義データを保存します。テストチャート画像を作成するために、**エクスポートチャート**を使用します。

3.14.2マルチカラーのための定義ファイルの生成

標準色空間のグレイ、RGB、CMYKと同様に、マルチカラーの場合にも、定義ファイル生成の間に、一次色リニアリゼーションのありかなしを選択できます。必要なステップは同じです。ー前記の説明を見てください。

リニアリゼーションなしで作業したいなら、単純に**カスタムチャート**を開き、色空間プルダウンメニューで、例えば7CLR、を選択します。



basICColor IMProve は、好きなように修正できるチャンネルのために、あらかじめ定義した色を使います。スポイトツールを用いて色とその順序を変えることができます。例えば、レッドをグリーンと入れ替えたい場合（スクリーンショットを見てください）、レッドピペットをクリックし、変えたい色、この場合グリーンを、色の下のコンテクストメニューで選択します。

***メモ**：もし、basICColor IMProve 内で、前に他の測定データを開いているなら、色の下のコンテクストメニューで、それら測定データのチャンネル名を見られます。単に必要な色をここで選択します。*

色のチャンネル名を調整するために、ダイアログボックスの右側のペンシルツールを使い、好きなようにチャンネル名を変更します。

開始ボタンをクリックするとすぐに、定義ファイルが演算され、データセットに表示されます。デバイス色空間とパッチの数がファイル名に含まれます。

もし、他のプログラムでテストチャート生成のために、それを再使用するのなら、ファイル/保存で定義データを保存します。テストチャート画像を作成するために、*basICColor IMProve* でエクスポートチャートを使用します。

一般的なマルチカラーテストチャートを生成するために、印刷機で用いる色にできるだけ近くなるように、チャンネルの数とその名前（CMYKであるかどうかにかかわらず）を決めます。定義データ内でチャンネルの色を正確に指定する必要はありません。正しい色の組み合わせを生成するように、その種類の色に近いことを確認します。例えば、バイオレットを印刷したいなら、チャンネル色として、グリーンやレッドやシアンではなく、ブルーを選ぶことがで
きます。

***メモ**:basICColor　DeviL　のマルチカラープロファイル作成は、三つの色彩色+オプションブラック+最大三つの色域拡張色をサポートしています。可能な組み合わせの例は、CMYK+オレンジ、ＣＭＹ＋グリーン＋ブルー、ＣＭ＋オレンジ+K、CMYK+レッド+グリーン+バイオレットなどです。CMYKカラーガマット内に位置する他の色は、プロファイル作成で問題となるかもしれません。測定データ内で問題となりそうな色の組み合わせを確認するために、ビューダイアログのくもの巣を使用します。*

3.15 エクスポートチャート

エクスポートチャートツールは、デバイスカラーに基づいて、プリンタでプリントするためのTIFFまたはPSDファイルで保存することができるテストチャートを作成します。

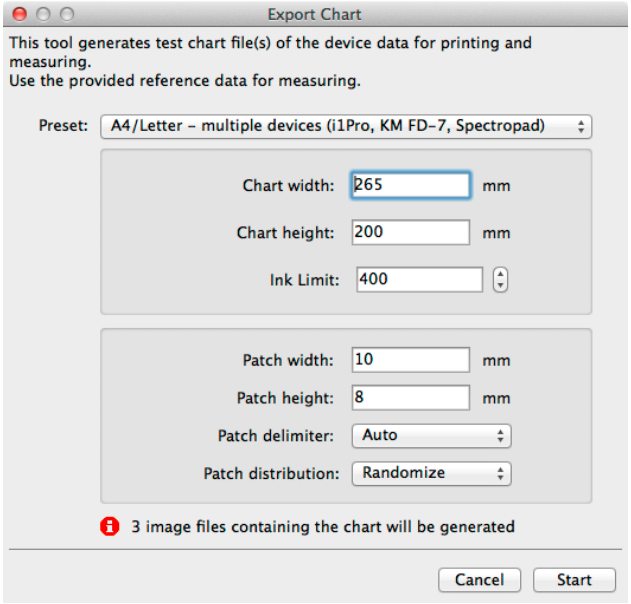
必要なデバイスカラー値をもつ定義ファイルを選択し、この情報を測定データ内にロードします。異なった色空間の有効な定義データが、Data/Predefined dataの下に保存されます。既存の定義データに基づくチャートを、**カスタムチャート**ツールで作成できます。

該当する測定器のテストチャートを作成するための、適切な設定を定義するために、**エクスポートチャート**ツールを開きます。

***メモ**:ツールは、basICColor catch 測定ツールでサポートされるほとんどの測定器で働くように最適化されます。*

- Barbieri Spectro LFP
- Barbieri Spectropad
- Datacolor Sypder3Print SR/ 1005
- Konica-Minolta FD9/ FD-7/ FD-5
- X-Rite i1Pro 2 /i1Pro 1

A4/USレターかA3フォーマットでテストチャートを生成するために、プルダウンメニューで設定を選択します。カス



タム用紙サイズについては、二つのプリセットの一つを編集します。編集したバージョンは、**カスタム**としてマークされます。*basICColor IMProve* は、さらなるテストチャートの作成のために設定を記憶します。

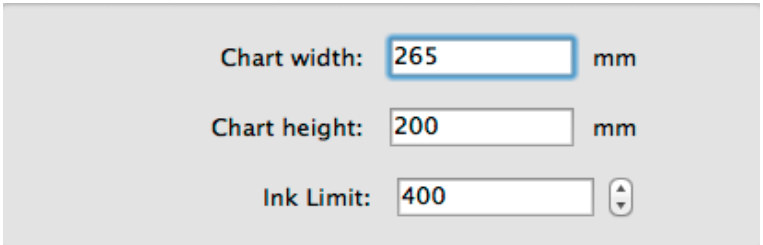
設定を定義した後（詳細は次の節）、basICColor IMProve はテストチャートが何ページ必要か表示します。チャートの高さがより大きいと、ページ当り多くのパッチとなり、必要なページ数が減少します。

開始ボタンをクリックするとテストチャートがエクスポートされます。保存ダイアログでファイル名とフォーマット（TIFFか

PSD）を決めます。*basICColor IMProve* は、必要なテストチャートと定義したレイアウトに合う新しい定義データを生成します。

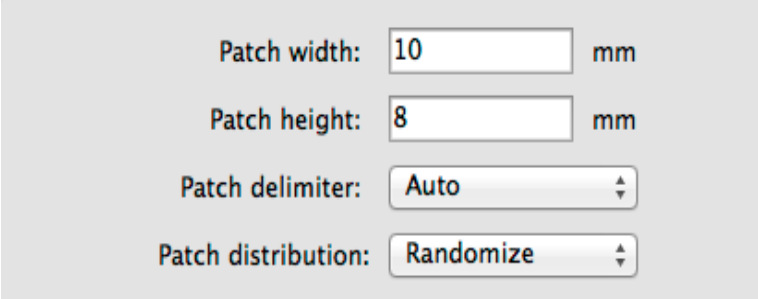
設定の詳細

測定器には、パッチサイズ、異なるパッチ間のギャップに関して、そして、おそらくチャート全体サイズに関して特定の要求



があります。加えるに、印刷工程の要件を重んじ、インキ制限量（TAC）を減らさなければなりません。

下の区域で、各カラーパッチの**パッチ幅**と**パッチ高さ**を指定します。**パッチ区切り**が必要ならプルダウンメニューで指定します。デフォルトの**自動**か、パッチ間のギャップが不要なら**なし**を



使います。さらなる情報については、測定器のドキュメントを参照してください。

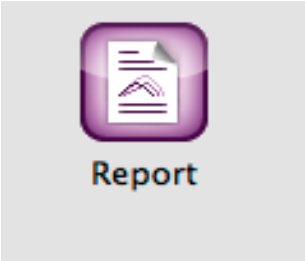
パッチ分布は、定義済（通常）か、ランダマイズ（印刷プルーフではより良い）でプリントするオプションがあります。設定**ソート**は、カラーパッチを明るいから暗いまで順に整列します。これは、ランダムチャートをよく整列したレイアウトに修正するか、単一の色のカラーウェッジをエクスポートする時に役に立ちます。

上の部分で、画像サイズと個別のテストチャートのTACを指定しなければなりません。カラーパッチのために用いるスペース（パッチにラベル付けするのに必要なスペースを引いて）を制限するために、必要な**チャート幅**と**高さ**を入力します。これを用紙サイズと混同しないでください。ー画像サイズと同様です。エクスポートしたテストチャートは、その後、必要な用紙上に配置することができ、それからプリントされます。

***メモ**：測定器のドキュメントを参考にしてください。ある測定器は、行の上をスキャンすることで、パッチの行を測定できます。これらのタイプの測定器は、もし、パッチの区切りが必要で、最小パッチサイズが知らされているならば、チャート幅が指定されている時に考慮する必要のある幅まで測定できるルーラーを使います。*

インキ制限は、エクスポートチャートに特定の機能で、テストチャートをエクスポートするためにTACを制限することができます。

***メモ**：測定とプロファイリングのために、エクスポートした定義ファイルを使います、それで、定義の値とテストチャートはお互いに一致します。定義ファイルにはインキ制限がないけれども、プロファイリングで誤ったICCプロファイルを作成してしまい、サードパーティーのプロファイリングアプリケーションがこれを扱うことができないかもしれないことに注意してください。加えるに、ICCプロファイルを構築する時、テストチャート中で指定したのと同じかより低いインキ制限を使います。ほとんどの場合、テストチャート作成にインキ制限は不要です。*

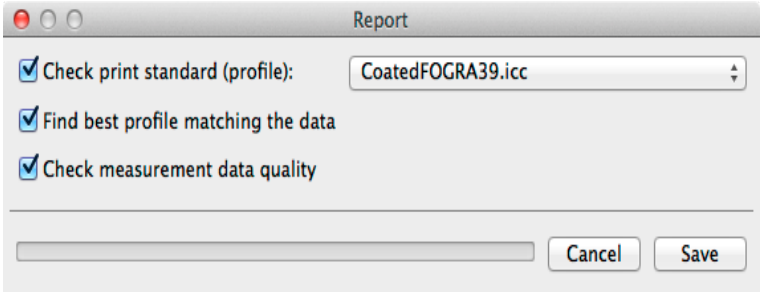


3.16 測定ファイルのレポート作成

もし、測定データがさらなる処理（例えば、プロファイルの作成）に適切かどうか、あるいは補正する必要があるかどうか分らないなら、レポートを作成することができます。このレポートは、データの検証やグラフィカルな表示に用いられ、補正のための推奨を提供します。レポートは、測定データに必要な補正のタイプをドキュメントするのに非常に強力な機能です。

ツールを適用する前に、測定ファイルを選択し、**レポート**ボタンをクリックしてください。

重要な**測定データ品質の確認**機能に加えて、必要なら、プロファイルの比較を選択するために、**プリント標準（プロファイル）の確認**、および/あるいはICCプロファイルのリストから比較のために測定データと最もよく一致するICCプロファイルを自動的に選択するために、**データと一致する最良プロファイルを見つける**チェックボックスをオンにします。

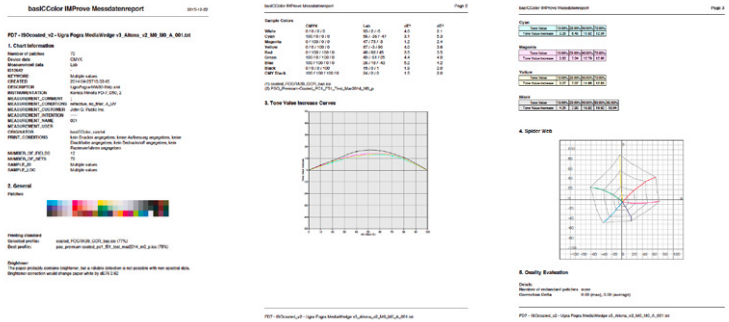


保存をクリックすると、希望のファイル名と保存場所を入力する保存ダイアログが開きます。加えて、レポートのフォーマットを指定します。

***メモ**: basICColor IMProve は、PDFまたはXMLレポートを作成できます。例えば、Microsoft Excel でカスタムなデザインをするためには、XMLレポートを使います。レポートファイルと共にXMLの概要を含む付加ファイルIMProveReport.xsd も保存されます。 他のツールにデータをインポートする時、使うことができます。*

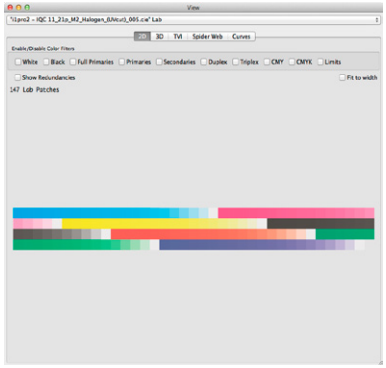
保存をクリックすると、例えばPDFレポートが生成され、保存されます。そして、好きなPDFビュアーで開くことができます。種々のレポートページが、冗長なカラーパッチのマッチングのテスト結果（**品質評価**セクション）、測定やプリントエラーおよび測定ファイルの滑らかさだけでなく、**トーンバリューインクリーズカーブ**、ガマット表現（**くもの巣**）の洞察を提供します。

PDFファイルの異なるレイヤーのオン/オフをスイッチすることで、個別のトーンカーブを表示できます。さらには、赤枠で囲まれたカラーパッチのオン／オフをスイッチして、補正とスムージング前後のカラーパッチを見ることができます。加えて、個別セクションでのテキスト評価が、*basICColor IMProve* 内で用いる補正ツールのヒントを与えます。 また、用紙中の蛍光増白剤について、測定データに最もよく合う有効なICCプロファイルのヒントや、あらかじめ定義された基準プロファイルをどのように表すのかのヒントを得られます。



4章

「ビュー」ウィンドウ

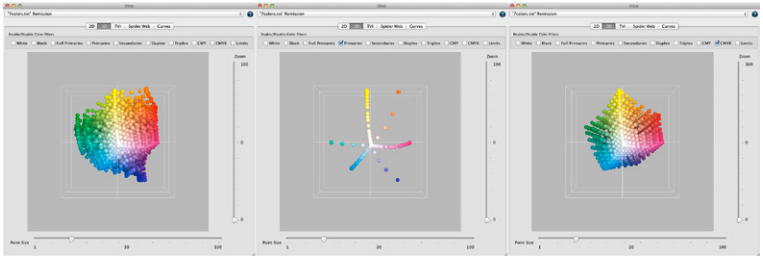


4.「ビュー」ウィンドウ

もし測定ファイルをもっと詳細に考察したいなら、データセットエリアでこれを選択し、ビューウィンドウを開きます。五つの異なったビューで、測定ファイル中の全カラーパッチの概観をすばやく得られます。:**2D**ビューは、各パッチの定義と対応するLab値を表示します。色空間の回転する**3D**ビュー、**TVI**カーブ、2次元のカラービュー(**くもの巣**)、そしてグラデーションの様々なカーブです。

色フィルタ

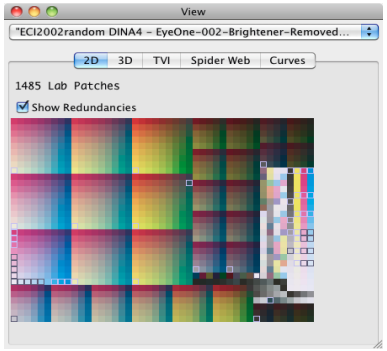
2D や**3D**ビューで選択した色を強調するために、色フィルタを使うことができます。選択したフィルタによって影響されない非選択の全ての色は隠されます。これは、2Dビューの中で、テストチャート内の選択した色をすぐに見る簡単な方法です。3Dビューの中で、選択した色のカラーガマットが可視化されます。この方法で、例えば**全一次色**、**境界**、**一次色**、**二次色**、**紙白**や**ブラック**を強調できます。
また、**一次色+K**と**二次色+K**にチェックすることもできます。これも、マルチカラーデータの色空間の拡張をCMYやCMYK



と比較して確認する顕著な能力です。

4.1 2Dビュー

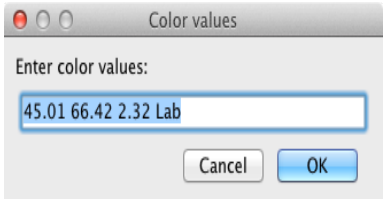
「重複の表示」機能を使い、2Dビューは色とその位置について、提供しているドキュメント内部のすべての重複パッチをマークします。これらのパッチは、重複ツールを利用する時適用されます。



- マウスをカラーパッチ上にもっていくと、そのパッチのLab値と定義値を見られます。スペクトルデータは、また、**レミッション**としてマークされます。スペクトルデータの場合、カラーパッチの濃度を取得するために**濃度表示**に切り替えることができます。

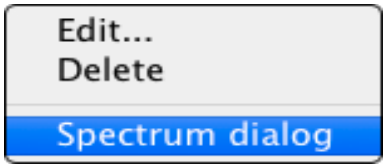
- カラーパッチ上をクリックすると、それを基準として定義し、デルタE指標はゼロにリセットされます。クリックしないで別のカラーパッチへ動かすと、二つのパッチの色差が表示されます。

- 2Dタブ内でカラーパッチをダブルクリックすると、Lab値が表示される**色値**ダイアログが開きます。その値を変えて、**OK**ボタンをクリックすることで変化を適用できます。



メモ:Lab値の手動編集でも、スペクトルデータを使い、このデータのスペクトル特性は残ります。

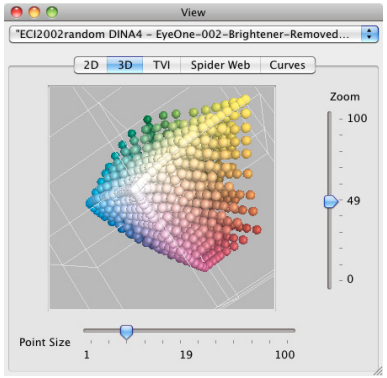
- 2Dビューダイアログ中のパッチを選択することによる一つのパッチの削除、マウスを右クリックし、コンテクストメニューから削除を選択します。



- 加えるに、選択したスペクトルカラーのリミッションカーブを表示する**スペクトルダイアログ**を開くのに、コンテクストメニューを使うことができます。

メモ:スペクトルダイアログが開き、2Dビュー内のパッチ上をマウスでスクロールすると、いつでも、関連した色のスペクトルカーブを見られます。

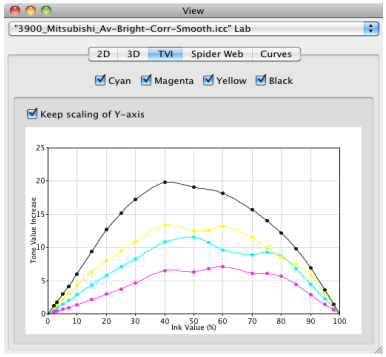
4.2 3Dビュー



- クリックしてドラッグすることで、カラーパッチを**3D**ビュー内の望む方向に向けることができます。

- ガマットをドラッグすることで、色空間がその方向に回転します。一回のクリックは自動回転を止めます、また、回転の1分後に、ユーザーの関与なしで自動的に止まります。

- 右側の**ズームスライダー**を使って、ビューを大きくしたり小さくしたりします。**ポイントサイズスライダー**を使って、カラーパッチを拡大したり、縮小したりします。



4.3 トーンバリューインクリースカーブ (TVI)

トーンバリューインクリースカーブ（**TVI**）を、このビューで解析できます。**TVI**に影響するような、カーブの編集や他の補正の間に、トーンバリューカーブタブが開いている時は、いつでも、すぐにその効果を見ることができます。

- チェックボックスは、ロードした測定データの一次色に依存します。一つのカーブを表示したり消したりするために、CMYKとマルチカラーファイルについて。チェックボックスを使うことができます。

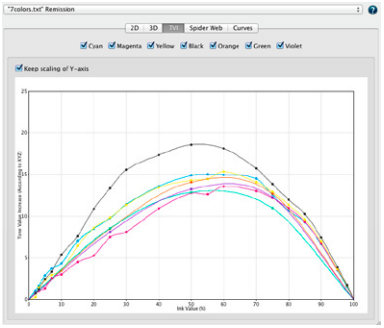
- **Y軸のスケール**を維持チェックボックスにチェックを入れることで、TVIカーブを図中で最もよい方法で表示します。Y軸のスケール係数は、測定データに依存して、カーブの最も正確で大きい表示を確実にします。

- チェックボックスをオフにすると、新しいデータでのY軸の自動調整を防ぎます。時々、これは、異なった調整の比較を容易にします。

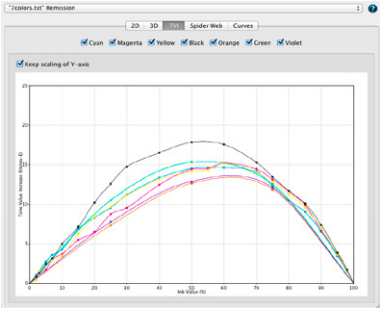
- CMY（ブラックなし）のみやRGBを含む測定データも *basICColor IMProve* で最適化できます。 CMYやRGBカーブとともに、その他の合成グレイカーブも**TVI**タブで表示されます。

- TVIカーブは、**ビュー**ダイアログ中で、常に内部重複補正をして表示されます。これは、特に紙白のような、類似の色値が大きく異なる場合、予想外の表示となるのを避けます。

- TVIの表示は、**プリファレンス**の中の**トーンバリュー演算**のオプション（第3章）で変更することができます。カーブは、XYZかスペクトルデータを使って、演算し表示することができます。



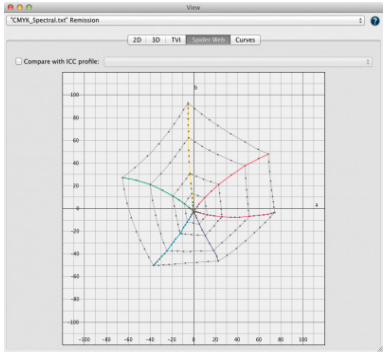
***メモ**： basICColor IMProve の標準設定は、XYZ値に基づいてカーブを演算します。これは、測定データに基づくか、ものによって結果としてのICCプロファイルに基づくかのいずれでも、カーブの一貫した表示を許します。プリファレンス内のチェックボックスをオフにすることにより、カーブは、もしスペクトルデータが有効なら、濃度法によって演算されます。この方法は、印刷工程管理でのカーブとさらに一致しています。また、マルチカラー印刷での特色のTVIカーブは、XYZ法が非CMYK色に適していないため、濃度法の利点があります。*



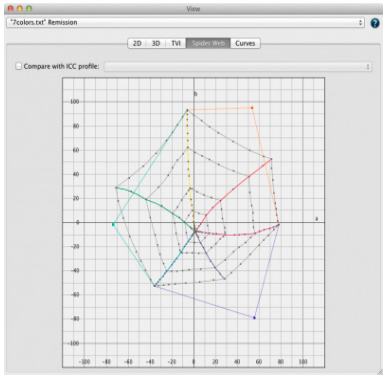
スクリーンショットは、CMYK+オレンジ+グリーン+バイオレットを用いる7色印刷システムにおける別のTVIカーブを表示しています。49ページで、高性能なbasICColor IMProve が別のチャンネルにおいて補正フィルタを既に用いた、XYZに基づくカーブを見ています。左図にステータスEでの濃度法に基づくカーブを見られます。

4.4 くもの巣

これは、a*-b*図中の色空間を上から見た図です。測定または最適化したカラーパッチが、くもの巣の中に整列しています。他のビューと互換性があり、**履歴**の中の調整の一つを選択して、**ビュー**ダイアログ中で変化を確認できます。

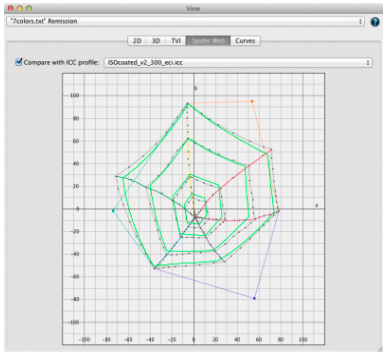


くもの巣では、全ての一次色と二次色の階調が、対応する色で強調されています（CMYKデータのスクリーンショットを参照してください）。

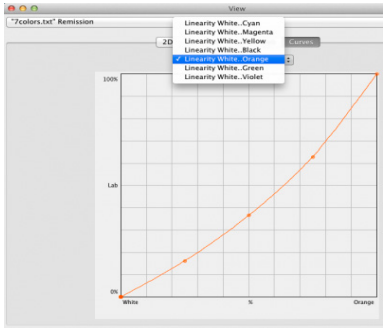


マルチカラーデータのくもの巣ビューを、次のスリーンショットで見ることができます。CMYKデータの測定点と更なる一次色の全階調を表示しています。これら一次色から最も近い他の二つへ、まっすぐに色の付いた線があります。これらの線は、最終色空間の粗いビューを表しているだけです。それでも、付加的な色が色空間をどのように拡張しているかを見る重要な指標です。

***メモ**: basICColor IMProve でマルチカラープロファイルを生成するために、三つの色彩色+オプションのブラック+三つまでのガマットを拡張している追加の色が必要です。可能な組み合わせの例は、CMYK+オレンジ、 CMY+グリーン+ブルー、CM+オレンジ+Kなどです。CMYK色空間内に位置している他の一次色は、プロファイル生成の間に問題を引き起こすかもしれません。くもの巣ビューは、ある色の組み合わせが問題を起こすかどうかすぐに分かる重要なツールです。*



ICCプロファイルとの**比較**を用いると、プルダウンメニューで比較のためのプロファイルを選択できます。選択したプロファイルの色空間が、測定データに加え、緑で表示されます。これは、異なった色空間を比較し、個別の自社標準が一般的な印刷標準に合致しているか確認するのに役立ちます。



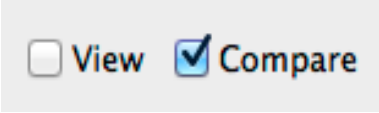
4.5 カーブ

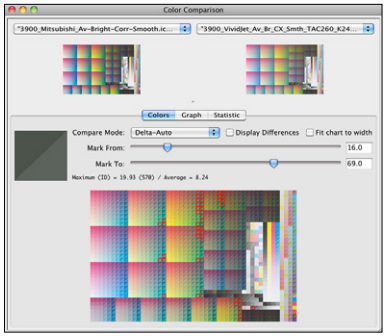
カーブタブで、白から100%の一次色まで、またマルチカラーデータにおいても、リニアリティーカーブを表示できます。データのリニアリティーを表示でき、滑らかでない階調カーブを見つけ出す助けになります。

***メモ**:Lab/dE76に基づく色彩的リニアリティーは、一次色の50%が、左の値(ホワイト)と右の値(フルトーン)とで同じ距離であることを意味します。今日、RIPは一次色を色彩的方法に基づいてリニアライズします。完全にリニアなカーブ(45度)は、完全な色彩的リニアリティーに点を打ちます。*

5章

「比較」ウィンドウ





5.「比較」ウィンドウ

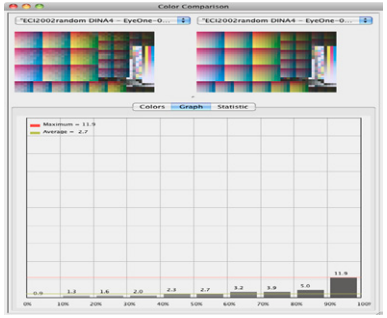
カラータブ
比較モードプルダウンメニューの下の**カラー**タブで、色差形式を選択します。

マークの始まりと**マークの終わり**のスライダーで指定する、特定のデルタE範囲内にあるカラーパッチを強調します。

マウスでカラーパッチを選択すると、関連するLab値と色差（デルタ）と共に、二つの色がスライダーの左の部分に表示されます。
カラーパッチの外側の「空」の部分をクリックすると、カラーパッチ全体の平均色差（平均）と同時に最大色差（最大）が表示されます。

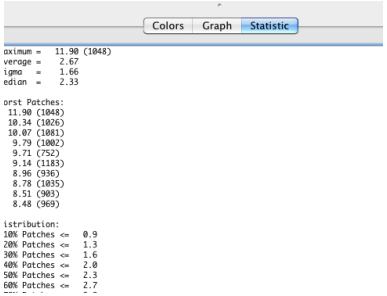
色差表示チェックボックスをクリックすると、スライダー**マークの始まり**と**マークの終わり**で指定したカラーパッチの色差が明確に強調されます。

ウィンドウサイズに関連して可能な限りの大きさで、カラーパッチを表示するように選択できます。また、幅に合わせるオプションのチェックをオフにすることで、全チャートを表示することができます。



グラフタブ

このグラフィックは、補正/最適化が測定データ上にどの位、効果があるかを示します。
この例では、全測定読取の40%が、最大デルタE2.3まで修正され、全読取の90%が、最大デルタE5.0まで修正されることが分かります。そして、実際に強い修正は、デルタE11.9のピークをもつ全測定の最後の10%(90-100%)になされるだけです。

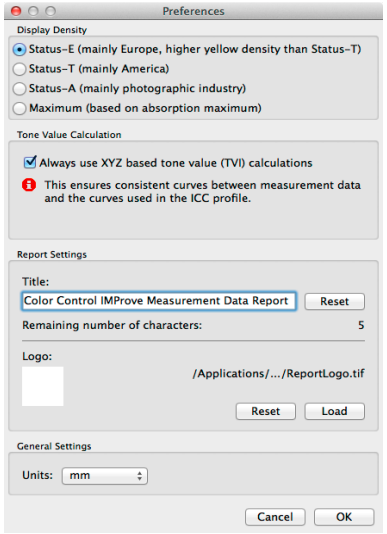


統計タブ

統計ウィンドウは、最も重要なデルタE値と最も影響を受けるカラーパッチについて、テキストの形で総括します。**グラフ**ビューも、テキストブロックの形でリストされます。

6章

プリファレンス



6. プリファレンス

アプリケーションの全般的な動作を規定するために、*basICColor IMProve* プリファレンスを使います。

- **濃度表示**は、**ビュー**と**レポート**で濃度を計算し、表示する方法を指定します。

- **トーンバリュー演算**チェックボックスは、ビューダイログでTVIカーブの演算と表示を切り替えます。

メモ：*basICColor IMProve のデフォルト設定は、TVIカーブをXYZ値に基づいて計算します。このモードは、測定データとICCプロファイルから発する同じカーブとの間で、TVIカーブを確実に一貫したビューにします。ICCプロファイルは、色彩データを用います。しかしながら、スペクトルデータがあり、**プリファレンス**内でチェックボックスがオフの時、TVIカーブは濃度とカーブの計算に用いられる選択された濃度モードに基づきます。マルチカラープロファイリングで用いられる特色のTVIカーブは、このオプションが非常に有益です。XYZに基づく計算は、非CMYKインキにおいては最適な一致にはなりません。*

- **レポート設定**は、生成したレポートにおける**表題**と**ロゴ**を指定します。サポートしている画像フォーマットは、RGB色空間でTIFF、JPEGかGIFです。

- **全般設定**は、**エクスポートチャート**ダイアログで使用する測定単位（mmかインチ）を指定します。

変更は、**OK**ボタンをクリックした後で、適用されます。

7章

製品情報
basICColor IMProve

7. 製品情報basICColor IMProve

著作権情報

basICColor IMProve - Copyright © 2011 basICColor GmbH.
All rights reserved.

マニュアル - Copyright © 2015 basICColor GmbH.

本書に記載した情報は、参考用に提供するものです。その内容は予告なく変更されることがあり、basICColor GmbHによるコミットメントを表すものではありません。basICColor GmbHは、本書に不正確な箇所や誤りがあってもその責任を負いません。本書のいかなる箇所も、basICColor GmbHの書面による明示的許可なしに、これを複製、転送、転写、翻訳することを禁じます。

商標情報

basICColorとFingerprintは、basICColor GmbHの登録商標です。その他の商標や登録商標はすべて、それぞれの保有者(Apple、Adobe、X-Rite、コニカミノルタTA、ColorPartner、Barbieri)の財産です。これらの商標への言及は、説明目的のみであり、第三者の権利を侵害しようとする意図はありません。

翻訳：宇野則彦、郡元太
Version 3.0, December 2015